

その大部分は B 細胞性で例外的に T 細胞性の報告があるが、今回の検討から後者のあるものも T/NK 細胞リンパ腫の可能性が考えられ、乳腺悪性リンパ腫の一亜型として注目すべきである。

### 9. 甲状腺悪性腫瘍における AgNORs

(第一病理学)

澤田達男

AgNORs を細胞増殖性変化の指標とすることに関しては未だ確立されているとは言い難い。今回我々はその組織形態が必ずしも悪性度と相関しないことが知られる代表的な腫瘍群である甲状腺腫瘍において AgNORs 法が日常の診断に有効であるか否かの基礎的データを得るため、甲状腺濾胞腫瘍を用いて染色方法、測定法および測定時における臓器特異性に関して検討し、PCNA を用いた免疫組織化学により得られた LI と比較検討した。

症例は当院病院病理科の file から、follicular adenoma 2 例、follicular carcinoma および poorly differentiated follicular carcinoma (insular carcinoma, Rosai) および anaplastic carcinoma 各 1 例を選び検討した。今回の検索は、症例も少数で、染色の条件の決定という性格の強いものであったが、正常組織、adenoma および carcinoma の間で明らかな

AgNORs の値の差を認め、また PCNA LI と良い相関を示した。染色時間は他の組織と同様に 20 分が有効であった。今後症例を積み重ね、また良性疾患との比較も重要と考えられる。

### 10. 悪性転化を伴う成熟嚢胞性奇形腫 11 例の臨床病理学的検討

(産婦人科)

岩淵理子・

矢島正純・菊地愛子・石巻静代・

安達知子・井口登美子・武田佳彦

卵巣成熟嚢胞性奇形腫の悪性転化は稀であるが、その予後は不良とされている。そこで今回我々は過去 10 年間の卵巣奇形腫 396 例(うち成熟嚢胞性奇形腫 385 例、悪性転化を伴う成熟嚢胞性奇形腫 11 例)について、治療前における良/悪性の鑑別、治療方法、予後について臨床病理学的検討を加えた。

その結果、良性群に比べ悪性群は治療時年齢、腫瘍マーカー値(CA125, SCC)、腫瘍径が有意に高値を示し、これらの因子が良/悪性の鑑別に有用であると思われた。また II 期以上の症例は化学療法、放射線療法が全く奏効せずその予後は不良であり、PCNA 染色も早期より高い標識率を示すことから、悪性転化が疑われる場合には早期治療が望まれる。